

2025 FUN&RUN! 2-Wheels

in SUZUKA CIRCUIT RACING COURSE



RACE [Mix Small & Mix Big] - NEO STANDARD

FUN&RUN Mix Small, FUN&RUN Mix Big,

NEO STANDARD(Ninja250/YZF-R25), NEO STANDARD(CBR250R/G310R)

24
Sat. May



【イベント開催概要・レースレポート】

■開催概要

- 大会名称 : 2025 FUN & RUN! 2-Wheels IN SUZUKA CIRCUIT RACING COURSE
- 開催場所 : 鈴鹿サーキット 東コース (2.243km)
- 主催者 : ホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキット
三重県鈴鹿市稲生町7992 <https://www.suzukacircuit.jp>
- 開催クラス : ★総参加台数/81台
FUN & RUN Mix Small/EXPERT...17台
FUN & RUN Mix Big/EXPERT...18台
NEO STANDARD<CBR250R>...5台
NEO STANDARD<G310R>...13台
NEO STANDARD<Ninja250>...13台
NEO STANDARD<YZF-R25>...15台
- 開催日・天候 : 5月24日(土)・曇りのち雨



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/



★レース写真は、バトルファクトリー様のHPでご購入いただけます。
<http://www.battle.co.jp/race/top.htm>

■次回開催予定

- 大会名称 : 2025 FUN & RUN! 2-Wheels IN SUZUKA CIRCUIT INTERNATIONAL RACING COURSE
- 開催場所 : 鈴鹿サーキット フルコース (5.821km)
- 開催日 : 2025年7月19日(土)
- 開催クラス : NEO STANDARD<CBR250R/G310R/Ninja250/YZF-R25>
- 併催レース : 2025 Ninja Team Green Cup, G310 Trophy Supported by オートレース宇部 Racing Team

【開催クラス紹介】

【NEO STANDARD】

現在、各社から発売されている、手頃な車両価格で最も人気の高い4ストローク250ccマシンによるエントリークラス。カワサキNinja250R、ホンダCBR250R、YZF-R25、BMW G310Rの4車種にクラス分けされています。スプリントレースでありながら、途中ライダー交代またはピットインが必要となります。また、チームエントリーでシリーズ戦として開催し、車両別となったカテゴリーでのチャンピオンが決定するのも人気の理由。

ライダーを1大会2名まで登録することができ、チームとしても楽しめる、経済的なクラスとなっています。

<参加車両例>カワサキNinja250 ホンダCBR250R ヤマハYZF-R25 BMW G310R

【FUN&RUN Mix Small】

いわゆるシングルや小排気量車、すなわち排気量が2st250cc/4st 400cc以下で、ホイールサイズが16インチ以上の一般生産型市販車、単気筒および2気筒エンジンを搭載するバイク、そして400cc以下と 2ストローク250ccの公道用一般車両が対象。一世を風靡したレーサーレプリカなど個性的なバイクが参加します。排気量と気筒数により、Small I、Small IIと参加車両のカテゴリーが分かれています。

<参加車両例>ホンダ NSR250SE ヤマハ TZR250RS ヤマハ SRX60 スズキ SV400S ホンダ CBR400RR カワサキZXR400R

【FUN&RUN Mix Big】

国内外のV型2気筒エンジン搭載車と一般生産型の車両で4ストローク401cc以上のマシンなら何でも参加可能なクラス。

国内外メーカーのツインバイク、そしてビッグネイキッドが一堂に会するレースは迫力が違います。特に「C-OPEN」クラスは、排気量が2ストローク251cc/4ストローク401cc以上でホイールサイズが16インチ以上であればどんな車両でも参加可能なクラスです。

<参加車両例>ホンダ CBR1000RR ホンダ CB1300SF ホンダ VTR1000SP1 ヤマハYZF-R6 ヤマハXJR1300 スズキGSX-R600
スズキGSF1200 カワサキGPZ900 ドゥカティ999S ドゥカティ1098S アプリリアRSV1000R

2025 FUN&RUN! 2-Wheels

in SUZUKA CIRCUIT RACING COURSE



RACE [Mix Small & Mix Big] - NEO STANDARD
FUN&RUN Mix Small, FUN&RUN Mix Big,
NEO STANDARD(Ninja250/YZF-R25), NEO STANDARD(CBR250R/G310R)

24
Sat. May



“ファンラン”の2025年シーズンがついに開幕! 初戦らしく熱いバトルが各カテゴリーで展開された!!

例年はFUN & RUN! 2-Wheels(“ファンラン”)で鈴鹿サーキットにおける2輪モータースポーツシーズンが開幕することが多かったが、今シーズン最初に行われた2輪レースは4月19日(土)・20日(日)の鈴鹿サンデーの第1戦だった。その約1ヶ月後、“ファンラン”の2025年シーズンがついに開幕した。“ファンラン”は「みんなで走ってバイクをもっと楽しもう!!」をコンセプトとしており、レース当日もアットホームな雰囲気が漂うのが特徴。また、様々なバイクと幅広い年齢層のライダーが一堂に会し、ワンデーでたくさんの競技が開催されることでも人気を集めている。2025年シーズンの開幕戦となった今回は「FUN & RUN Mix Small/EXPERT」と「FUN & RUN Mix Big/EXPERT」、そして「NEO STANDARD」の各レースが開催された。

小排気量マシンによる「FUN & RUN Mix Small/EXPERT」には往年の2サイクル250cc/4ストローク400ccのレーサーレプリカを中心に参戦。Honda RS125Rや同NSF250Rといった新旧市販レーサーも入り乱れ、激しいバトルを展開した。また、大排気量マシンによる「FUN & RUN Mix Big/EXPERT」には比較的新しめの600ccスーパースポーツやリッタースーパースポーツも多く参戦。こちらは大排気量エンジンならではの轟音を発しながら展開されたバトルに注目が集まった。さらに、スプリントレースでありながらセミ耐久のような楽しみ方ができることから昨今の“ファンラン”で特に人気を集める「NEO STANDARD」のレースはHonda CBR250RとBMW G310R、Kawasaki Ninja250とYAMAHA YZF-R25のそれぞれ混走による2レースが行われた。特に注目を集めたのはG310Rクラス。このカテゴリーには、今回からこのG310Rにマシンを変更して参戦したチームもあり、今後さらに盛り上がっていくことを予感させた。

1999年に始まり、25年以上の歴史を持つ“ファンラン”の次回は7月19日(土)に開催される。舞台は待望のフルコースで、見どころの多い展開となるだろう。加えてKawasaki Ninja ZX-25Rのワンメイクレース「Ninja Team Green Cup」とBMW G310Rのワンメイクレース「G310R Trophy Supported by オートレース宇部Racing Team」が併催される。さらに注目を集めるであろう第2戦も楽しみにしていただきたい。



FUN & RUN Mix Big コースイン直前

※レポートに掲載の各クラス表彰式は、総合・カテゴリーを合同で実施しています。また、表彰式に不参加の選手、あるいは代理の場合もあります。

2025 FUN&RUN! 2-Wheels

in SUZUKA CIRCUIT RACING COURSE

24
Sat. May



RACE [Mix Small & Mix Big] - NEO STANDARD
FUN&RUN Mix Small, FUN&RUN Mix Big,
NEO STANDARD(Ninja250/YZF-R25), NEO STANDARD(CBR250R/G310R)



■ FUN & RUN Mix Small / EXPERT

公式予選では大竹洋司がその時点で唯一1分を切る59秒854をマーク。その大竹が58秒580を記録して自己ベストを更新すると、その直後、愛甲正吾がそれに続く59秒472をマークする。決勝レースで良いクラッチミートを披露し、ホールショットを奪ったのは3番グリッドスタートの清水省作。それに2番グリッドスタートの愛甲が続く。逆バンクでトップの清水が転倒。愛甲、8番グリッドスタートの前田義生、5番グリッドスタートの芝井賢一のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。7番グリッドスタートの上田裕史が芝井をパス。4周目には前田が愛甲をパスしてトップに立つ。上田も愛甲をパス。前田と上田がテールtoノーズのバトルを展開する。その2台はその後も抜きつ抜かれつバトルを展開したが、前田がトップチェッカーを受けた。



FUN & RUN Mix Small総合表彰式 (優勝:前田義生、2位:米島智哉、3位:清井敏明)、カテゴリー別表彰式 (Small I優勝:米島智哉、Small II優勝:前田義生)



FUN & RUN Mix Small EXPERT総合表彰式 (優勝:上田裕史、2位:丹後明義、3位:愛甲正吾)、カテゴリー別表彰式 (Small I EXPERT優勝:丹後明義、Small II EXPERT優勝:上田裕史)

2025 FUN&RUN! 2-Wheels

in SUZUKA CIRCUIT RACING COURSE

24
Sat. May



RACE [Mix Small & Mix Big] - NEO STANDARD
FUN&RUN Mix Small, FUN&RUN Mix Big,
NEO STANDARD(Ninja250/YZF-R25), NEO STANDARD(CBR250R/G310R)



■FUN & RUN Mix Big / EXPERT

金曜日の特別スポーツ走行から好調だった西溜英夫が公式予選でも好走を披露。西溜は特別スポーツ走行時の自己ベストを上回る55秒213をマークしてポールポジションを獲得する。決勝レースではその西溜が良いクラッチミートを決めたが、スタートで後方からスルスルっと伸び、オープニングラップをトップで帰ってきたのは3列目9番グリッドスタートの川原龍次だった。それに5番グリッドスタートの団和仁、2番グリッドスタートの和多瀬邦治と続く。周回ごとに2番手以降を引き離し続ける川原の後方では2番手グループが激しいバトルを展開。3番グリッドスタートの内田洋一と西溜が団をパスする。内田は4周目に和多瀬をパスすると、徐々にトップを独走する川原にも接近していく。8周目にトップに立った内田が大逆転で総合優勝を決めた。



FUN & RUN Mix Big総合表彰式 (優勝:川原龍次、2位:熊谷昇三、3位:井上誠二)、カテゴリー別表彰式 (Big II優勝:川原龍次、Open優勝:熊谷昇三)



FUN & RUN Mix Big EXPERT総合表彰式 (優勝:内田洋一、2位:和多瀬邦治、3位:西溜英夫)、カテゴリー別表彰式 (Big I EXPERT優勝:水永英昭、Big II EXPERT優勝:永井一幸、Open EXPERT優勝:内田洋一)

2025 FUN&RUN! 2-Wheels

in SUZUKA CIRCUIT RACING COURSE

24
Sat. May



RACE [Mix Small & Mix Big] - NEO STANDARD
FUN&RUN Mix Small, FUN&RUN Mix Big,
NEO STANDARD(Ninja250/YZF-R25), NEO STANDARD(CBR250R/G310R)



■NEO STANDARD<CBR250R/G310R>

公式予選ではまず二谷周一が1分04秒778をマークしてタイミングボードのトップに。G310Rクラスのディフェンディングチャンピオン佐々木龍人がそれを上回る1分04秒745を記録。高橋千帆/小牧寛由組の小牧が佐々木のタイムと全く同じ1分04秒745をマークする。

ポールポジションスタートの高橋/小牧組の高橋と3番グリッドスタートの鈴木克正が横並びの状態でもコーナーに向けて伸びていったが、ホールショットを奪ったのは高橋。しかしすぐに鈴木がトップに。黄旗区間中の追い越し違反により、最後尾からのスタートとなった佐々木がなんと鈴木に続く2番手でオープニングラップを終える。2番グリッドスタートの二谷がそれに続く。

二谷は上位陣の中では早めにピットに。佐々木が10周目終了時点でピットに入り、腕章を付け替える。暫定トップの鈴木が13周目終了時点でピットIN。鈴木、佐々木のオーダーでコースに復帰すると、その後もその2台は危ない走りを見せる。

結局、鈴木がトップチェッカーを受けると同時にCBR250Rクラスのウィナーに。G310Rクラスを制したのは総合2位の佐々木だった。



NEO STANDARD<CBR250R> (優勝:鈴木克正, 2位:神谷健斗, 3位:長瀬拓海/原田晃好)



NEO STANDARD<G310R> (優勝:佐々木龍人, 2位:二谷周一, 3位:高橋千帆/小牧寛由)

2025 FUN&RUN! 2-Wheels

in SUZUKA CIRCUIT RACING COURSE

24
Sat. May



RACE [Mix Small & Mix Big] - NEO STANDARD
FUN&RUN Mix Small, FUN&RUN Mix Big,
NEO STANDARD(Ninja250/YZF-R25), NEO STANDARD(CBR250R/G310R)



■NEO STANDARD<Ninja250/YZF-R25>

公式予選では昨年のNinja250クラスでランキング2位だった山本晃久がまずタイミングボードのトップに。YZF-R25クラスのディフェンディングチャンピオン鳥居典生がそれに続くが、中村和悦が一気に山本と鳥居のタイムを上回る。その後も順位の入れ替えがあったが、中村がポールポジションを獲得した。

決勝レースのスタートでは中村と2番グリッドスタートの廣瀬直人が横並びの状態に加速していく。しかしホールショットを奪ったのは3番グリッドスタートの鳥居。その鳥居、杉島潤、中村のオーダーでオープニングラップを終了する。次第にその3台がそれぞれ単独走行に。鳥居は周回ごとに杉島以降を引き離し続けると、5周目終了時点でピットに入り、腕章を付け替える。それによって10位近くに落ちた鳥居だが、激しい雨の中、1分14秒761という他を圧倒するタイムをマーク。上位陣が全てピット作業を終えた後、鳥居は単独トップに振り返る。終盤に杉島が追い上げたが、鳥居がトップチェッカーを受け、YZF-R25クラスを制した。Ninja250クラスのウィナーは総合3位の山本だった。



NEO STANDARD<Ninja250> (優勝:山本晃久、2位:廣瀬直人、3位:大口智範)



NEO STANDARD<YZF-R25> (優勝:鳥居典生、2位:杉島潤、3位:松浦光利)